

批判的思考力の育成を見据えた日本語教育の実践

— 「日本語中級」におけるポスター発表会の取り組み —

鈴木 一 徳

Japanese Language Education Focusing on the Development of Critical Thinking Skills:

Activities for Poster Presentations
in the “Intermediate Japanese” Classes

SUZUKI Kazunori

1. はじめに

工学院大学〔以下、本学〕には、第二外国語科目として、日本語を母語としない留学生を受講対象にしている「日本語中級Ⅰ」および「日本語中級Ⅱ」が用意されている¹。「日本語中級」科目〔以下、本科目〕は、留学生を対象としている特性上、大学での学びに必要な日本語能力の育成や日本語能力試験N1取得レベルの日本語能力の育成を目指している。

本稿では、2021年度に授業内課題として実施したポスター発表会の報告を行い、今後の本学での日本語教育の在り方について検討する。

2. 「日本語中級」科目について

本科目は、日本語を母語としない留学生を受講対象としているものの、選択科目の1つであるため、留学生の全員が履修を義務付けられているわけではない。したがって、留学生の身分であっても、本科目を履修せずに卒業に必要な単位を満たすことはシステム上可能である。しかし、以下の(1)および(2)に挙げる2つの理由により、留学生には積極的な履修を推奨している²。

(1)日本語そのものに関する知識（語彙や文法の知識）のみならず、批判的思考力の育成を視野に入れている

(2)留学生を対象とした唯一の科目であるため、様々な背景をもつ留学生と共に学ぶことで、異文化理解・多文化共生の視点を得ることができる

まず、(1)について、批判的思考には様々な定義があるが、楠見・道田(2015)では以下のように定義されている。

(前略)その本質は、証拠に基づいて論理的に考えたり、自分の考えが正しいかどうかを振り返り、立ち止まって考えたりすることにあります。ここでは、相手の意見に耳を傾けることが出発点であり、協同してより良い決定や問題解決をすることを目的としています。

(楠見・道田, 2015, p.i)

さらに、イールズ-レイノルズ他(2019)では、優れた批判的思考者になるためには(3)に挙げる事柄が必要であると述べている。

- (3) a. 自分自身の考えや他社の考えに対して疑問を進んで投げかけること
 b. 他者の考えや物の見方について心が開かれていること
 c. 肯定的・否定的な判断ができること
 d. 証拠のある情報源を見分け、その分野で信頼されているものか、信憑性があるものか認識できること
 e. 証拠や文献、その意味することについて探索し、問いを投げかけるために十分な自信をもっていること
 f. 自身の考えのプロセスや議論の構築における強みと弱みを認識できること
 g. 自身のバイアスや偏見に直面したときに誠実であること
 h. 代替案やさまざまな意見を考慮する柔軟性をもっていること
 i. 正直な気持ちで熟考したときに変更が必要だと思われたなら、考えについて再検討したり、それを修正することをいとわないこと
 j. 考えや議論を改善した形で再提示することができること

(イールズ-レイノルズ他, 2019, p.3)

本科目では、楠見・道田(2015)およびイールズ-レイノルズ他(2019)の定義に基づき、特に、「自分自身の考えや他社の考えに対して疑問を進んで投げかけること」「相手の意見に耳を傾けること」「考えや議論を改善した形で再提示することができること」に重きを置き、言語に関する表面的な知識の習得に留まらず、批判的思考力の育成にも力を入れることとした。留学生つまり日本語非母語話者である以上、日本語母語話者の学生と比べると、日本語

の言語能力については越えられない壁がある。しかし、批判的思考力については、トレーニング次第で母語話者・学習者関係なく、十分な内容を語るができるようになる。

実際、第二言語教育の実践においては、CLIL (Content and Language Integrated Learning: 内容言語統合型学習) という、言語に関する知識にとどまらず、特定の内容を目標言語で学ぶという教授法が開発され (Coyle, Hood & Marsh, 2010)、日本語教育実践への応用も行われている (奥野・小林・佐藤・元田・渡部, 2018)³。他にも、TBLT (Task-Based Language Teaching: タスク・ベースの言語教育) という、ある指定されたタスクについて目標言語を用いながら遂行する教育方法もある (Ellis, 2003; Long, 2015; 松村, 2017)。つまり、言語教育の実践においては、言語の形式面の教授・学習だけでは不十分であり、目標言語を用いて内容のあるものを思考することが重要である。

次に、(2) について、本科目は学部開講科目の中で唯一の留学生のみを受講対象とした科目である。したがって、受講者は全員が日本語を第二言語とする留学生である。本学は留学生の割合が低く、留学生同士の交流も必然的に低くなってしまいう傾向にある (鈴木・渡辺, 2022)。本学には留学生会のような留学生で組織された留学生のための組織は存在せず、留学生同士で交流する機会も限られているため、本科目の活動を通して共に学ぶことは、留学生ならではの悩みを共有・相談したり、学業への動機付けを高めたりすることにも貢献しうると考えられる⁴。

本科目では、特に (1) に挙げた批判的思考力の育成に焦点を当て、授業実践を行った。次節以降で、具体的な実践内容について報告をする。

3. 2021 年度の「日本語中級 I」について

3. 1. 受講者の内訳

2021 年度前期に開講された「日本語中級 I」は、中国語話者 4 名、韓国語話者 1 名、合計で 5 名の留学生が履修した。全員が 1 年生であった。各学生の日本語習熟度は N1 取得者から N3 取得者までばらつきがある状態であった⁵。

3. 2. ポスター発表のテーマと目的

「日本語中級 I」の授業では、指定教科書の読解・演習に加えて、最終課題としてポスター発表会を行うこととした⁶。ポスターのテーマは、「留学生から見た日本」とした。留学生には各々の言語・文化を有している。そして、日本への留学をきっかけに、日本の言語・文化に直接的に触れることになる。母国を離れて日本に留学することを選んだ学生たちは、自国の文化と日本の文化の両方に触れており、留学という体験はまさに異文化コミュニケーションの連続である。母国での「当たり前」や日本での「驚き」や「違和感」は、留学生本人しか経験しておらず、それを言語化し、他者と共有し、議論することは、異文化理解をする上で

重要である。つまり、異文化理解の要は、まずあらゆる「異」を知ること、そしてその「異」を認めること、さらにはその「異」と共存することであり、そのようなプロセスを経て、多様な価値観が身につく、多文化共生のための人間的成長を促してくれる（原沢, 2013）。

ポスター発表を行うことで、疑問を持つこと、多様な意見を認識すること、信頼性のある情報を見極めること、そして発表内容をひとつのストーリーとしてまとめる力を育成することを試みた。そして、実際にポスター発表会を行い、他者との議論を行うことで、批判的思考力の基盤を作ることを目的としていた。

3. 3. ポスター発表までの過程

3. 3. 1. 第1回～第3回

初回の授業で、今までのポスター発表の経験を尋ねたところ、経験がある履修者はおらず、ポスター発表がどのようなものであるかも想像できないという意見もあったため、第2回・第3回の授業内では、ポスター発表に関する概要を伝えた。具体的な完成形のイメージを持たせるために、筆者が過去に学会発表で使用したポスターを見せ、どんなことが書かれているか、どのような配置にしたら分かりやすいかなどを議論した。

3. 3. 2. 第4回～第6回

第4回～第6回の授業では、具体的なポスター発表のイメージが形成された頃に、ポスター発表のより具体的な内容について各自検討をした。その際、「良いポスターとは何か?」「ポスター作成で気をつけることはどんなこか?」など、復習を踏まえて、ペア・グループワークを行った。

ポスター発表のテーマは「留学生から見た日本」であったが、このテーマは広すぎることに、さらには比較・対照の観点からテーマを絞ることを伝え、具体的に自国と日本の何について比較をするかを各自で検討した。テーマ探しの際には、学生同士のペアワークや教員との議論の時間を多く設け、選んだテーマについて、自国と日本の比較において、何が異なるのか、どのように異なるのか、なぜ異なるのか、さらにはどちらが優れているかなどを議論し、自身の経験の振り返りおよび必要な文献・資料の検索も促した。

付録1に、第4回～第6回で使用したワークシートを添付する。

3. 3. 3. 第7回～第9回

具体的なテーマが決まり、第7回～第9回の授業（および宿題）では、実際に1枚のポスターを作製した。毎回の授業に持参するポスター草案をペアまたはグループで確認し、コメントをし合った。適切な量の日本語での説明の有無、理解を促進する図表の有無、出典がある場合は正しく引用できているかなどを確認した。適宜教員が介入し、より良いものができるように助言をした。

付録2・3に、第7回～第9回で使用したワークシートを添付する。

3. 3. 4. 第10回～第12回

ポスターが完成形に近づいてきたところに、第10回～第12回の授業では、発表原稿の作成を行った。ポスター発表会当日に原稿を見ることは禁止したが、日本語表現力の育成および論理展開の確認のために、原稿を作成した。ほぼ全ての履修者が、原稿を作成する過程で、ポスター内での図表の配置を変えたり、不要な記述を削除したり、論理的なストーリーにするために新たに記述を追記したりしており、より深いレベルで日本語について考えていることが窺えた。

また、ポスター発表会を行うことにした大きな理由の1つに、質疑応答での即戦力を鍛えることがあった。ポスターの作成や原稿の準備は、時間をかければ質が上がるが、発表会当日にどのような質問が出てくるかは完全に予想することは不可能である。したがって、第12回には、各自が作成したポスターについて、考えられる質問を検討し、その回答を考える練習も行った。

3. 3. 5. 第13回

第13回の授業では、ポスター発表会を行った。受講者同士はお互いの発表内容を熟知しているので、筆者が担当している英語科目（Basic Communication）で留学生との交流に興味を持っている学生、学生団体「留学生サポーター」の有志メンバー、さらに、学生支援課の留学生担当の職員に声をかけ、発表を聞き、積極的に質問をしてもらった。

ポスター発表会実施後の受講者の感想を聞くと、「思っていたより時間が短かった」「質問に対して回答するのが楽しかった」というような前向きな感想が多く、日本語を学ぶことに加えて、日本語で学ぶことの楽しさ、さらには批判的思考力トレーニングの有用性を認識したようである。

4. 2021年度の「日本語中級Ⅱ」について

4. 1. 受講者の内訳

2021年度後期に開講された「日本語中級Ⅱ」は、中国語話者5名、韓国語話者1名、合計で6名の留学生が履修した。1年生が5名、2年生が1名であった。前期と同様、各学生の日本語習熟度はN1取得者からN3取得者までばらつきがある状態であった。

4. 2. ポスター発表のテーマと目的

「日本語中級Ⅱ」の授業でも、指定教科書の読解・演習に加えて、最終課題としてポスター発表会を行うこととした。ポスター発表のテーマは、「自身の専門性の国際社会への応用

可能性」とした。本学は理工系の学部のみを有する大学であり、留学生もそれを理解した上で入学してきている。工学や建築学に関する学問的知見は、社会への還元という観点からも有用である。そこで、受講者自身が工学院大学および当該学部を志望した理由を振り返り、将来希望する進路を見据えて、現在どのような研究が行われているのかを調べ、その研究成果が国際社会でどのような役に立つかを考えることを行った。前期同様、調べて発表するだけでなく、調べたことを自分の言葉で要約し、ひとつのストーリーとしてまとめ、発表会という形式で他者との議論を行うことで、批判的思考力の基盤を作ることを目的としていた。さらに、後期の授業では、ポスター発表に基づくレポート作成も行い、ポスター発表会で得られた質問やコメントをもとに、自身の発表内容を見直し、改善された形で再提示するトレーニングも行った。

4. 3. ポスター発表までの過程

4. 3. 1. 第1回～第4回

ポスター発表のテーマは「自身の専門性の国際社会への応用可能性」であったが、このテーマは広すぎることを伝え、具体的に自身の研究分野でどんな研究がされているかを各自で探索した。テーマ探しの際には、学生同士のペアワークや教員との議論の時間を多く設け、選んだテーマについて、なぜそのテーマにしたのか、研究成果の要約、問題点・課題は何か、どのような期待ができるかなどを議論し、必要な文献・資料の検索も促した。

付録4・5に、第1回～第4回で使用したワークシートを添付する。

4. 3. 2. 第5回～第7回

具体的なテーマが決まり、第5回～第7回の授業（および宿題）では、実際に1枚のポスターを作製した。毎回の授業に持参するポスター草案をペアまたはグループで確認し、コメントをし合った。適切な量の日本語での説明の有無、理解を促進する図表の有無、出典がある場合は正しく引用できているかなどを確認した。適宜教員が介入し、より良いものができるように助言をした。特に、今回の課題は、専門性が高くなるため、「専門家でない人でも理解できるように日本語を言い換える必要性」も強調して指導した。

4. 3. 3. 第8回～第10回

ポスターが完成形に近づいてきたころに、第8回～第10回の授業では、発表原稿の作成を行った。ポスター発表会当日に原稿を見ることは禁止したが、日本語表現力の育成および論理展開の確認のために、原稿を作成した。ほぼ全ての履修者が、原稿を作成する過程で、ポスター内での図表の配置を変えたり、不要な記述を削除したり、論理的なストーリーにするために新たに記述を追記したりしており、より深いレベルで日本語について考えていることが窺えた。

4. 3. 4. 第11回

ポスター発表の予行練習を行った。聴衆は受講者のみであったが、スムーズに内容を伝えることができるか、聴衆の理解度を確認しながら発表を進められるか、さらには質疑応答が適切にできるかを試した。

4. 3. 5. 第12回

第12回の授業では、ポスター発表会を行った。受講者同士はお互いの発表内容を熟知しているので、筆者が担当している英語科目（Basic Communication）で留学生との交流に興味を持っている学生、学生団体「留学生サポーター」の有志メンバー、学生支援課の留学生担当の職員、学部専任教員に声をかけ、発表会場に来てもらい、発表を聞き、積極的な質問をしてもらった。

ポスター発表会実施後の受講者の感想を聞くと、「準備が足りなかったところがあった」「先生のコメントで新しい視点に気づけた」「質疑応答が前期よりもスムーズにできた」というような大学での学びについて前向きな感想が多く、インタラクションの受容性や批判的思考力トレーニングの有用性を認識したようである。さらには、受講者からは「毎週月曜の日本語の授業が楽しみ」という感想もあり、学生自らが主体的に学ぶことの重要性を体得していたこと、加えて本科目が留学生にとっての「心地良い居場所」になっていることが窺えた。

4. 3. 6. 第13回

第13回の授業では、ポスター発表の内容をレポート形式でまとめ直す練習をした。特に注意した点は、ポスター発表会では口語体（例：～です、～ます）の使用をさせたが、レポートでは文語体（例：～だ、～である）の使用をさせた点である。また、レポートの内容には、ポスター発表会で得られたコメントや質問も盛り込み、ポスターの内容を上回るものを作成するようにし指示した。発表原稿を用意していたが、改めてレポートとして書き直すことで、文同士の繋がりや悪さや論理展開の不十分さに気づけたようである。

5. おわりに

本稿では、2021年度に筆者が担当した「日本語中級Ⅰ・Ⅱ」の授業でのポスター発表に関する取り組みの実践報告を行った。受講者が少なかったことから、留学生同士のコミュニケーションの機会が多くあり、さらに留学生と教員とのインタラクションも多数あったため、各留学生のレベルおよび興味に応じた批判的思考力育成の基盤になる日本語教育を提供できたと考えている。2021年度の実践を経て得られたことは、受講者本人の興味を最大限尊重すること、教員を含めクラス全体が各留学生の意見に耳を傾け一緒に思考することで、深い学びが得られ、さらにはその思考した内容を表現するための言語的能力の伸長にもつながるということである。

本学における留学生のための日本語教育の課題としては、留学生のために開かれている授業科目は、この「日本語中級Ⅰ・Ⅱ」のみであり、継続してより深く広く学びたい留学生をカバーできる科目が用意されていないことである。現在は、学生団体「留学生サポーター」が積極的にイベントを企画し、留学生同士および留学生と日本人学生の交流を行っているが、大学の国際化・グローバル化を本気で考えるのであれば、留学生のためのシステム作りは急務である。留学生にとって魅力的な大学を目指すことで、キャンパスそのものが日本人学生にとっても異文化理解・多文化共生の学びの場になるに違いない。

注

- 1 本学が定める留学生とは、以下の入試種別によって入学してきた者を指す。したがって、日本語が母語であり、十分な日本語運用能力を有する学生は受講不可である。
 - ・外国人留学生入試
 - ・別科生特別入試
 - ・海外特別指定校推薦入試
 - ・海外帰国生特別入試
 - ・国際バカロレア特別入試
- 2 新年度に開催される留学生対象のオリエンテーションでは、本科目の履修を強く勧めている。2021年度は、科目担当教員である筆者も同席し、本科目の説明および履修の推奨を行った。
- 3 つまり、「外国語を学ぶ」ことに加えて「外国語で学ぶ」ことも教える。
- 4 2021年度には、留学生と日本人学生の交流を促進させるために、学生団体の「留学生サポーター」を組織した。詳細については、鈴木・渡辺（2022）を参照されたい。
- 5 日本語能力試験（Japanese Language Proficient Test: JLPT）は、日本語学習者のための言語能力試験で、N5、N4、N3、N2、N1の5つのレベルがあり、N1が最も高いレベルである。試験の詳細は、ウェブサイトを参照されたい（<https://www.jlpt.jp/>）。
- 6 教科書は、鎌田・ボイクマン・富山・山本（2012）を指定した。やや古い教科書ではあったが、書き物がレリア（新聞記事や論文などの生教材）であること、教科書内である問題に関する複数の観点からの意見が紹介されていること、自身の意見やクラスメイトの意見を交換する活動が多数用意されていること、文化（異文化理解）に関する読み物が充実していたこと、さらに、日本語能力試験N1程度の文法や語彙が適宜演習問題として組み込まれていることから、この教科書を選定した。

参考文献

- イールズ・レイノルズ, レスリー・ジェーン・ジャッジ, ブレンダ・マックリーリー, エイレン・ジョーンズ, バトリック (楠見孝・田中優子 (訳)) (2019) 『大学生のためのクリティカルシンキング—学びの基礎から教える実践へ—』 京都: 北大路書房。
- 奥野由紀子 (編)・小林明子・佐藤礼子・元田静・渡部倫子 (2018) 『日本語教師のための CLIL (内容言語統合型学習) 入門』 東京: 凡人社。
- 鎌田修・ボイクマン総子・富山佳子・山本真知子 (2012) 『生きた日本語で学ぶ 新・中級から上級への日本語』 東京: ジャパンタイムズ。
- 楠見孝・道田泰司 (編) (2015) 『批判的思考力—21世紀を生きぬくリテラシーの基盤—』 東京: 新曜社。
- 鈴木一徳・渡辺美香 (2022) 「留学生と共存するキャンパスを目指して—工学院大学留学生サポーターの取り組みと展望—」 『工学院大学 研究論叢』 59-2号, 83-91頁。
- 原沢伊都夫 (2013) 『異文化理解入門』 東京: 研究社。
- 松村昌紀 (編) (2017) 『タスク・ベースの英語指導—TBLTの理解と実践—』 東京: 大修館書店。
- Ellis, R. (2003). *Task-based language learning and teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- Long, M. (2015). *Second language acquisition and task-based language teaching*. West Sussex: Wiley Blackwell.

付録1

Kogakuin_Japanese_2021

ポスタープレゼンテーションをしよう

学籍番号： _____

氏名： _____

- 「ポスタープレゼンテーション」って何？

- 「良いポスター」ってどんなポスター？

- 「悪いポスター」ってどんなポスター？

- ポスター作成で気をつけることはどんなこと？

- **テーマ「留学生から見た日本」**
 - あらゆる側面から見て、日本の良いところ、問題だと思うところ
 - あらゆる側面から見て、自国の良いところ、問題だと思うところ
 - 上記の比較・考察
 - （留学生視点からの）将来の日本に期待すること

- **発表タイトル**
 -

付録2

Kogakuin_Japanese_2021

ポスタープレゼンテーションをしよう

学籍番号： _____

氏名： _____

● テーマ「留学生から見た日本」

- あらゆる側面から見て、日本の良いところ、問題だと思うところ
- あらゆる側面から見て、自国の良いところ、問題だと思うところ
- 上記の比較・考察を踏まえて、(留学生視点からの) 将来の日本に期待すること

● 発表タイトル

● 構成

トピック：

日本のいいところ：

日本の問題だと思うところ：

自国のいいところ：

自国の問題だと思うところ：

日本と自国の比較：

考察：

(留学生視点からの) 将来の日本に期待すること：

付録3

Kogakuin_Japanese_2021

ポスタープレゼンテーションをしよう

学籍番号： _____

氏名： _____

- **タイトル：**
- **内容の具体化（具体例や数値なども含める）**

- 日本のいいところ：

- 日本の問題だと思うところ：

- 自国のいいところ：

- 自国の問題だと思うところ：

付録4

Kogakuin_Japanese_2021

ポスタープレゼンテーション

学籍番号： _____

氏名： _____

- テーマ：自身の専門性の国際社会への応用可能性

- 自身の専門は？

- その専門で今どんな研究が行われている？

- その研究成果は、社会にどのように応用されている？

- 今後、どのように発展していくと思う？（日本において；世界において）

- 自分はその発展にどのように関わっていききたい？

- ポスター発表に向けて、どんなことを調べる必要がある？

付録5 (1枚目)

Kogakuin_Japanese_2021

ポスタープレゼンテーション

学籍番号： _____

氏名： _____

● 発表題目

● ポスターの構成

1. はじめに（発表についての課題と結論を簡潔に示す）
2. 背景（そのテーマの研究が生まれた背景や問題意識などを示す）
3. 先行研究（そのテーマの研究で今までにどんなことが明らかになったかを示す）
4. 分析（そのテーマをどのように応用させることが可能かを分析する）
5. 考察（分析した内容について、実現可能性やさらなる課題を述べる）
6. おわりに（発表内容を簡潔・明確にまとめる。）

● 根拠となるデータを示そう！

どんなデータがありますか？

● 背景や先行研究のセクションでは、資料（書籍や論文など）を引用しよう！

どんな資料がありますか？

付録5 (2枚目)

Kogakuin_Japanese_2021

● **具体的に発表を構成しよう！**

どんなことを書く・述べるか、箇条書きで記してみよう。

1. はじめに（発表についての課題と結論を簡潔に示す）
2. 背景（そのテーマの研究が生まれた背景や問題意識などを示す）
3. 先行研究（そのテーマの研究で今までにどんなことが明らかになったかを示す）
4. 分析（そのテーマをどのように応用させることが可能かを分析する）
5. 考察（分析した内容について、実現可能性やさらなる課題を述べる）
6. おわりに（発表内容を簡潔・明確にまとめる。）

© 2021, Kazunori Suzuki